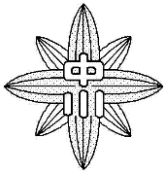


横浜市立



令和5年5月31日発行
中川小 学校だより 6月

学校教育目標 人・自然・まちとふれあいながら、自分を高める中川の子



『たい』をいっぱい

副校長 村田 篤子

「(私が)お弁当をつく『た』のに、(食べ終わった)お弁当箱を出さないなんて！」

これは、私の家で繰り返される会話の1つです。娘から「ありがとう」とか「おいしかった」とかがないこと
にがっかりした私と、ムツとしている娘。全然楽しくありません。「本当は、娘とニコニコ会話したいの
に……。」そんなとき、思い出すようにしているのは、元パラアイスホッケー日本代表の上原大佑さんの

『た』に『い』をたして『たい』にしたら、楽しいよ。」という言葉です。

「〇〇さんに、やさしくした」から「今度はわたしにもやさしくして」と求めるのではなく、「〇〇さんに「や
さしく『たい』」と自分が思っていることを自覚するのが大切だそうです。

先日の2年生のサッカーの授業。「みんなでがんばり『たい』」と子ども達が一致団結し、一人ひとりが
頑張ってボールをカラーコーン(的)にあてるゲームをしていました。「応援をした」のに、「(友達)は
コーンにあててくれなかった」なんて誰も言わず、「応援をし『たい』」から「頑張れ！」と友達に声をか
けている姿が見られました。コーンに当たっても外れても、すごく盛り上がっていました。

「〇〇さんを応援すると、自分も嬉しい。だから「応援し『たい』」……この『たい』がいっぱいの集団は
とっても楽しそうです。「親切にし『たい』」「一緒に遊び『たい』」「勉強し『たい』」……自分の気持ちが
スッキリしたり、ワクワクしたりすることにもつながります。自分もみんなも、とっても楽しいですね。

高め合うことのできる集団にはいろいろな『たい』があふれていることでしょう。『たい』をいっぱいにするこ
とをめざして、まずは、自分の『たい』を発見し、行動してみましよう。学校も『たい』が増えるよう、子ども
達を支援していきます。

私自身も、ニコニコ会話をし『たい』自分を再確認しました。もっとやさしくし『たい』自分も。

中川小学校が『たい』でいっぱいになりますように。